

## むすび

全世界でオーストラリア産樹種の植林が増加する傾向にある現状をみると、この林木種子センターが今後果たす役割はますます大きくなるものと思われる。これまでに需要の多かったユーカリやアカシア以外にも、アグロフォレストリーや村落用の小規模な植林に適した樹種の探索が進んでいる。例えば熱帯高地で広く作物の日よけ、アグロフォレストリー、材木用として用いられた、*Grevillea robusta* や実が美味しい *Macadamia integrifolia* 等である。センターでは1989年より本格的にこの2種の採種を計画しているが2年で20万豪ドル(約2,000万円)程かかると予想され、現在スポンサーを探している。日本からの協力についても期待されていることを記しておきたい。

過去に1944から1953年まで精油含有量の高い *E. polybractea* の種子の輸出が禁止され、抗バクテリア成分やアルカロイドを含む、*Melaleuca alternifolia* や *Castanospermum australe*, *Duboisia* spp. についてそのような運動があったが、現在ではすべて自由に送付している。実際、種子センターは、年商700万豪ドルといわれる、オーストラリアの種子輸出産業の良きアドバイザーでもある。

---

## 新刊紹介

◎多目的利用樹木種子便覧 (CARLOWITZ, P.G. von: Multipurpose Tree and Shrub Seed Directory. ICRAF (Nairobi) 刊, 265 pp., 1986.5 初版, 20 US \$+送料)

新刊とはいえないが、近年著しく関心が高まっている多目的樹種についての豊富な情報がまとめられているのであえてご紹介する。アグロフォレストリーの研究センターとして有名な ICRAF が、GTZ の後援で印刷したもので、主な対象樹種は熱帯および亜熱帯の、飼料、燃材、樹脂、薬用、木材などいくつかの利用法をもつものであるが、いわゆる肥料木、治山用樹種や農作物と混植されるものも含んでおり、また普通の造林樹種でも、木材生産以外の用途が考えられるものは加えられている。

構成は、1. 樹種別の供給者、入手可能量、価格(幅)、kg 当たり粒数、発芽率(幅)、発芽促進法。2. 供給者の組織の種類、発行される証明書、購入通貨、支払い方法、前払いの有無など。3. 樹種特性、KÖPPEN の気候区分、土壌特性(土性、酸度、排水性など)、更新法、管理法など。4. 樹種別利用法。5. N 固定樹木の共生微生物-根粒菌、放線菌、菌根菌の意義と利用法(N 固定の利点と各微生物の概説、接種菌の供給者、接種法など)。6. 文献であるが、1~4 はそれぞれ表にされている。なお、本書の情報はコンピューターにいれられており、樹種の増加、情報の改善・拡充などに対応して定期的に改版していく計画のようである。(浅川澄彦)